

太田聖人君の J R 東海ユニオン加入について

太田聖人君が、10月3日付でユニオンに加入したことがユニオンの情報で明らかになった。情報は、太田君が東海労を脱退しユニオンに加入したと報じている。しかし、君から地区分会の責任者である分会長の私には何の連絡も話もなかった。また、これまで親身になって話を聞いてくれた先輩や同僚はいたはずである。君もこれまで東海労組合員として、仲間を裏切り東海労を脱退していった者たちを見てきたはずだ。その時に君は何と言っていたのだ。「脱退するにあたって自分に何の話もなかった」と言っていたのではないか。忘れたとは言わせない。君の場合は、これまで東海労を脱退し仲間を裏切っていった者たちとは違うとでも言いたいのか。少なくとも人としての最低限の礼儀は尽くすべきである。

私は君に言ったはずだ。電話では話にならないから直接会って話を聞くと。にもかかわらず上田書記長に脱退届を渡そうとしただけで、ユニオンに加入するとは一体どういうことだ。労働組合に加入するにしろ脱退するにしろ、それなりの正規の手続きが必要なのだ。あまりにも自分本位で人としての信義に反する行為であるとしか言えない。

一つ君に教えておこう。5年前に君が大阪第二運輸所から新大阪駅へ異動となったのは、会社が理由もなくただ単に君を選んだわけではない。それは君を東海労から脱退させるためである。東海労組織破壊のために…。会社はその一点において用意周到なシナリオを描き、5年間にも及び君に関わってきたのである。業務研究会グループへの誘いなどすべてにおいてシナリオに基づいての行為だったのだ。会社は、こうした誘いに君が乗らないばかりか、東海労から脱退を一向にしないことに対して苛立ち、運輸所への復帰を熱望していた君に最後の揺さぶりかけてきた。そしてユニオンへの加入を実現したわけだ。

また、君はこれまで色々と組織への批判を繰り返してきた。「東海労組合員だから駅に異動させられ、運輸所に戻れなくなった。俺は組織の犠牲者だ。東海労組合員でいて損ばかりしてきた」などと理由をつけ東海労からの脱退をほのめかしていた。

しかし、君より先に新大阪駅へ異動していた東海労組合員は運輸所へ復帰している。東海労だから復帰出来なかったとする君の主張は通用しない。復帰した組合員とユニオンに加入した君の違いは何なのか…？

会社は、常日頃から君の言動や行動を把握したうえで運輸所へ復帰させなかったのだ。君を東海労から脱退させてユニオンに加入させるためであり、会社が思い描いたシナリオを完結させるために…。君はその会社のシナリオを自ら演じてしまったのである。

「ユニオンは労働組合ではない」と言っていた君はなぜユニオンに加入したのだ。会社から東海労を脱退しユニオンに加入すれば運輸所へ復帰させるとでも言われたのか。

これだけは言うておく。今は熱烈歓迎と言っているが周りをよく見てみろ。JNR採用の社員は会社全体でどれだけの比率か…。平成採用社員が職場の主体になっている現状からすれば、早く職場からJNR採用社員を追い出し、職場を平成採用の社員主体にしたいと思っている会社が、はたして君のことを真剣に考えているとは到底思えない。

いずれにせよ今回の君の行為は、これまで仲間として君を信頼し、時には君の話を聞き、親身に励ましてきた東海労の仲間を裏切る行為であることを自覚すべきである。

私は君の東海労脱退を認めていない。ましてやユニオン加入など断じて許されるものではない。

2014年10月9日

J R 東海労新幹線関西地本関西地区分会長 有村浩幸